

世田谷パブリックシアター



開場二〇周年

世田谷パブリックシアター
開場20周年

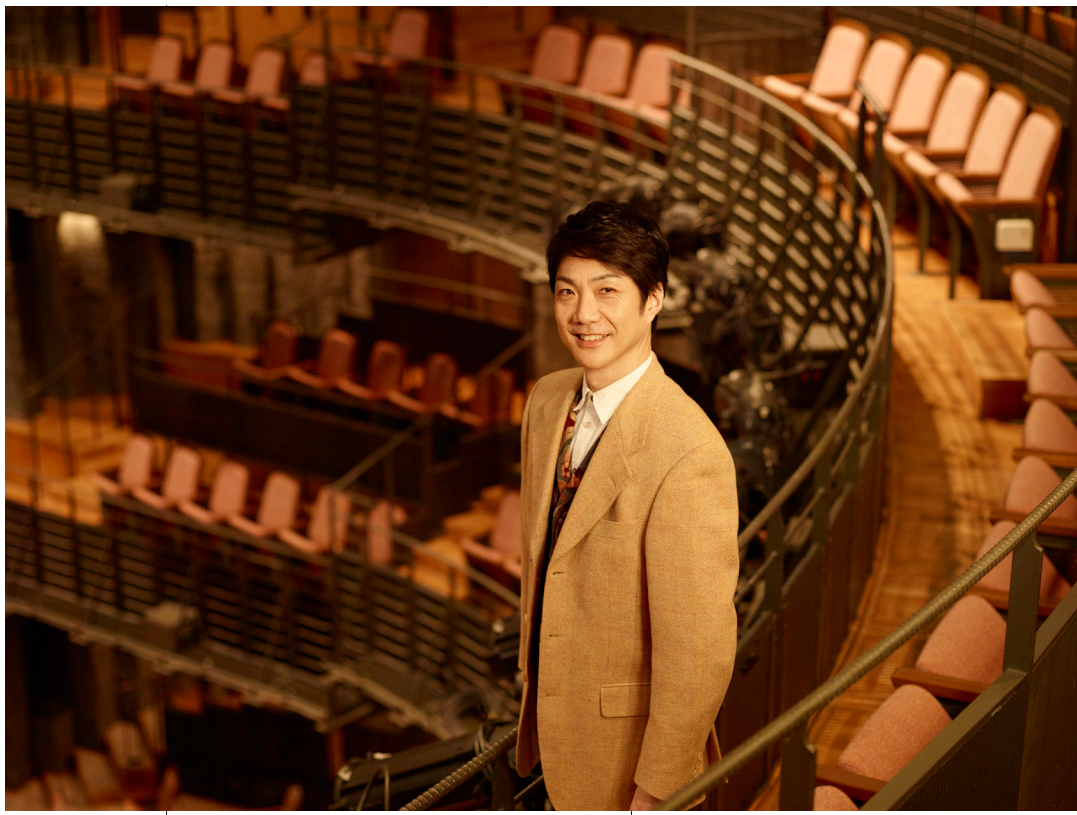
世田谷パブリックシアター
SETAGAYA PUBLIC THEATRE

シーズンラインアップ
2017年

野村萬齋

世田谷パブリックシアター
芸術監督

二〇周年を迎えて



2017年4月5日に開場20周年を迎える世田谷パブリックシアターは、創造と上演に加え、教育や啓発活動も行う稀有な公共劇場に育つ。芸術監督・野村萬齋が現在の活況をもたらした方針と、将来の展望について、2017年度シーズンのラインアップとともに語る。

空間、そんなイメージが定着したのです。

人々の対話と相互理解を促す作品を創る

2017年度の開場20周年記念プログラムにも、質の高い作品が並びます。新年度の始まる4月には、20周年記念公演『MANSAIポレロ』『唐人相撲』という祝祭的な演目で、皆さんと喜びを分かち合いたいですね。『MANSAIポレロ』は1928年にフランスでラヴエールが作曲したバレエ音楽「ポレロ」を、三善叟やコンテンポラリー・ダンスなど古今東西の動きを合わせて振付けました。本作は海外文化と伝統芸能、そして現代舞踊の結晶といえるかもしれません。同時上演の狂言『唐人相撲』は市民参加のプログラムです。

また、初夏には私自身が演出する木下順二作『子午線の祀り』があります。『平家物語』を題材にした戯曲で、群読という朗読形式を導入して壮麗な物語を伝えます。

10月には三軒茶屋の街を活気づける『三茶de大道芸』という催しを開きますが、この催しに関連して招くフランスの現代サーカス、カンパニーXYは幅広い年代のかたに楽しんでいただこうです。

身体性をいかした表現といえば、初夏にはコンテンポラリー・ダンスの振付家であるダンサーの勅使川原三郎さんが、『ABSOLUTE ZERO 絶対零度2017』を上演します。1998年に当劇場で踊った作品の進化型ですが、19年間に多くの国を駆使した先端系など、観客の知見を広げる舞台を招くことができました。その結果、今までにないものに出会う場所、以前はなかった発想ができるようになる

同じ劇場で8月末には、ダンスカンパニー・コンドルズを率いる近藤良平さんが、大人も子供も楽しめる新作を披露します。シェイクスピア作『間違いの喜劇』を私が狂言に翻案した『まちがいの狂言』に想を得た、『まちがいのコンドルズ』(仮題)という愉快なパフォーマンス作品です。

私は芸術監督として「世田谷で創った作品を、地域から日本、世界に向けて同心円状に広げていくこと」を目指してきました。日本の伝統芸能を取り入れて演出したシェイクスピア作の喜劇と悲劇は、ともに海外で高く評価されました。喜劇は『まちがいの狂言』、悲劇は『マクベス』。ともに異なる文化を合わせて新しい表現を導き、「それまで、どこにもなかった演劇の創造」という目標を達成できました。国際的な緊張が高まる時代には、文化を通じた対話が重要性を増していきます。

そこで、歴史や社会的な背景の違う人々の相互理解に通じる企画をそろえました。たとえば、海外の優れた戯曲を気鋭の日本人演出家が手掛けるシリーズ。夏にはドイツのヘルンドルフ原作『チック』を小山ゆうなさんが翻訳・演出。秋には英国のノーベル文学賞受賞作家、ピンターの戯曲『管理人』を森新太郎さんが演出。来春にはレバノン出身でフランス、カナダを拠点とするムワワド作『岸 リトラル』を上村聡史さんが演出します。

また、今年12月には兵庫県立芸術文化センターと共同制作で、日韓文化交流企画『ペール・ギュント』を上演します。ノルウェーの作家イブセンの戯曲を韓国のヤン・ジョンウンさんが演出し、日韓の俳優が協力し合うプロジェクトです。

来年の2月にはじまる私の出演作は井上ひさしさんが中国の文学者、魯迅と日本人の交流を描いた評伝劇『シャンハイ

ムーン』。こちらはこまつ座との共同制作で、演出は栗山民也さんです。

教育も公共劇場の大切な仕事

いっぽう、世田谷パブリックシアターにおいて公演と並んで大切なのは、普及啓発・人材養成事業です。この両輪で「観客の育成、アーティスト・専門スタッフの発掘・育成」を続けてきました。『Jazz for Kids』『地域の物語』などの企画も、普及や教育に関わる事業のモデルケースとなる活動の成果といえます。

教育とエンターテインメントが一体になった企画は、将来の芸術愛好家を増やす先行投資みたいなものです(笑)。日本の文化を発展させていくためには、長い目で教育を考え、大人と子供が協力することが不可欠。作り手、演じ手、観客の三位一体がうまく機能しない限り、良い劇場は成り立たないでしょう。まだ劇場にいらしたことがないかたは、どうぞ、勇気を出して足を踏み入れてください。お待ちしています！

野村 萬齋

のむら まんさい

1966年、東京都生まれ。狂言師。人間国宝・野村万作の長男。重要無形文化財総合指定者。2002年より世田谷パブリックシアター芸術監督を務める。国内外の能・狂言公演や舞台・映画出演はもとより、世田谷パブリックシアターでは『まちがいの狂言』など狂言の技法を駆使した舞台や、『国盗人』など古典芸能と現代劇の融合を図った舞台を次々と手掛ける。芸術監督就任後初の構成・演出作『敦 一山日記・名人伝』では朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞を受賞。構成・演出・出演を務めた『マクベス』は全国各地で上演を重ねるほか、海外公演(ソウル、ニューヨーク、シブヤ、パリ)も果たした。

オメデトウ

CONGRATULATIONS !!

20周年記念プログラムにご参加くださる方々に、お祝いのメッセージをいただきました。

オメデトウ



© 稲垣雄文

開場20周年おめでとうございます。一日一日の積み重ねによる年月であったことと思います。今後もいままで以上になにを積み重ねるのかよくお考えになられて、より良い劇場に成長してゆかれることを期待しています。私としては、来たる6月に開館時の20年前に創作した作品を改作公演する運びになりました。ありがたく楽しみにですが、身が引き締まる思いです。

勅使川原三郎
Saburo Teshigawara

世田谷の中でも、三軒茶屋は、なにかとワクワクする場所。その文化の中心にあるキャロットタワー。ありそでない少しヨーロッパの劇場みたいな所が、パブリックそしてトラム。20年を超えてさらに楽しみだ。我々もそこに参加する。友として。間違いだらけのこの時代にふさわしい一品で、今年のコンドルズ行きます！



© HARU

近藤良平
Ryohei Kondo

20周年おめでとうございます。20年前の私は、世田谷パブリックシアター&シアタートラムに観客として足を運んでおりました。開場してまだ間もないということもあり、劇場内は新鮮な空気に満ち溢れていました。あれから20年、この2つの劇場は、依然、その瑞々しさを失っていないから不思議です。今冬、ピンターの代表作『管理人』に挑みますが、祝20周年に相応しく、私もまた生き生きとした柔らかな発想力で演出できたらと思います。ご期待下さい。

森新太郎
Shintaro Mori

© 白鳥真太郎

20周年、おめでとうございます。劇場は、人と人が出会い、ふつかり合うことで、その温度を高めていく場所だと考えます。これからも、世界や人間について、その複雑な多様性と向き合うための物語を創り続けてください。そのシーズンに、萬齋さんと井上ひさしさんの芝居で、また一緒にすることになりました。それぞれに違った滑稽で愉快なキャラクターたちとともに、あの深い「言葉の森」のなかを、迷いながらも楽しく旅してみようと思います。

栗山民也
Tamiya Kuriyama

様々なことにチャレンジし、ここでしかできないことを表現し続けている世田谷パブリックシアター。20周年おめでとうございます！これからも素晴らしい文化発信を期待していますよ！“Big 20th” Many More!

日野皓正
Terumasa Hino

20周年おめでとうございます。学生の頃からパブリックシアターやシアタートラムに観劇に行く度に、早いスピードで変革しゆく時代の先を行く作品に大きく感銘をうけてきました。大好きな劇場で作品をつくらせて頂ける事とても楽しみにしています。私の生まれ故郷でもある、ハンブルグ出身の若くして亡くなった作家ヘルンドルフが14歳の少年達の疾走する夏の数日間に託したキラキラした命の輝きの物語をお届け出来ればと思っております。

小山ゆうな
Yuna Koyama

開場20周年を心よりお祝い申し上げます。その旅路にご一緒させて頂くことになり、大変光栄です。世田谷パブリックシアターに初めて訪れた時のことを思い出します。その素敵な空間と恋に落ちた僕は、一つ夢を抱きました。そしてついに『ペール・ギュント』でその夢が叶うことになりました。皆様に情熱のかつ熱い舞台をお見せできるよう頑張ります。『ペール・ギュント』、ファイティング！

ヤン・ジョンウン
Yang Jungung

より地域に根差したハードと先鋭的なソフトを発表し続け、公共劇場をリードしてきた世田谷パブリックシアターが、昨今の文化土壌の中で20周年を迎えられたことはとても価値のあることだと思います。その記念すべきシーズンに上演する『岸 リトラル』は、いま世界に起きている不条理と普遍的な人間性を詩的かつ刺激的に描き、豊饒な想像力を喚起できるような作品にしたいと思っています。

上村聡史
Satoshi Kamimura

1997-2017

2017
4

4月5日[水]～4月9日[日] 世田谷パブリックシアター

開場20周年を記念し、賑やかな狂言と野村萬齋渾身の独舞を上演
世田谷パブリックシアター開場20周年記念公演

4月5日[水]

トーク&パフォーマンス

『MANSAIボレロ』

出演=野村萬齋 ほか



10

4月7日[金]～4月9日[日]

狂言『唐人相撲』/
『MANSAIボレロ』

出演=野村万作 野村萬齋 ほか万作の会



8月23日[水] 世田谷パブリックシアター

毎回多彩なゲストを招き、「表現の本質」に迫る芸術監督企画

『MANSAI◎解体新書
その式拾七』

出演=野村萬齋 ほか

10月21日[土]～10月22日[日] キャロットタワー周辺

三軒茶屋の街が、ちょっと風変わりな
「アートタウン」に変貌する2日間
世田谷アートタウン2017

『三茶de大道芸』

出演=国内外のパフォーマー 約50組



5

4月30日[日]～5月7日[日] ダンス部門 世田谷パブリックシアター

世田谷区民と劇場が
ともにつくりあげる夢のステージ

『フリーステージ2017』

出演=世田谷区民団体 約60団体

音楽部門 シアタートラム

6

6月1日[木]～6月4日[日] 世田谷パブリックシアター

1998年、当劇場で生まれた究極のダンスが、今ふたたび甦る

『ABSOLUTE ZERO
絶対零度2017』

構成・振付・美術・照明=勅使川原三郎

出演=勅使川原三郎 佐東利穂子 ほか



11

10月20日[金]～10月22日[日] 世田谷パブリックシアター

総勢22名の身体がおりなす、ダイナミックで
美しいアクロバット!

フランス発の現代サーカス
世田谷アートタウン2017関連企画

カンパニーXY

『夜はこれから』

振付・出演=カンパニーXY



7

7月 世田谷パブリックシアター

『平家物語』を材にとり、
日本の演劇史上に燦然と輝く名作
野村萬齋、念願の初演出

『子午線の祀り』

作=木下順二 演出=野村萬齋 音楽=武満徹

出演=野村萬齋 成河 河原崎國太郎

今井朋彦 村田雄浩 若村麻由美 ほか



12

11月～12月 シアタートラム

ノーベル文学賞受賞作家ピンターの三人芝居に
大胆かつ緻密な演出で名を馳せる森新太郎が挑む

『管理人』

作=ハロルド・ピンター

翻訳=徐賀世子 演出=森新太郎

出演=溝端淳平 忍成修吾 温水洋一



12月 世田谷パブリックシアター

韓国演劇界をリードする演出家と日韓キャストにより、
不朽の名作が生まれ変わる

日韓文化交流企画

世田谷パブリックシアター+兵庫県立芸術文化センター

『パール・ギュント』

原作=ヘンリック・イブセン 演出=ヤン・ジョンウン

出演=浦井健治 趙里 ユン・ダギョン マルシア ほか



8

せたがやこどもプロジェクト2017

ステージ編

7月29日[土]・8月1日[火] シアタートラム

アーティストの個性あふれる絵本の読み聞かせ
毎夏恒例企画に、野村萬齋・初登場!

子どもとおとなのための◎読み聞かせ

『お話の森』

出演=ROLLY(7/29)、野村萬齋(8/1)



2018
1

1月 シアタートラム

若手団体の登竜門的存在!
劇場が期待を寄せる新しい才能を紹介

シアタートラム

ネクスト・ジェネレーションvol.10

第5回世田谷区芸術アワード“飛翔”舞台芸術部門受賞記念公演

to R mansion「The Wonderful Parade」

1月 世田谷パブリックシアター

選りすぐりの芸人が登場!劇場で寄席のにぎわいを味わおう

『爆笑寄席●てやん亭』

2月～3月 世田谷パブリックシアター

『戴原検校』のタグ第2弾!
魯迅と日本人との交流を描いた評伝劇の最高峰

こまつ座&世田谷パブリックシアター

『シャンハイムーン』

作=井上ひさし 演出=栗山民也

出演=野村萬齋 ほか



2月～3月 シアタートラム

『炎 アンサンディ』を含む“約束の血4部作”は
ここから始まった——衝撃作、日本版初演

『岸リトラル』

作=ワジディムワウド 翻訳=藤井慎太郎 演出=上村聡史



3月 シアタートラム

地域の多世代にわたる参加者が語り、
観客とともに考える発表会

『地域の物語2018』



8月31日[木]～9月3日[日] 世田谷パブリックシアター

間違いの喜劇、まちがいの狂言、
そして今度は『まちがいのコンドルズ』!?

『まちがいのコンドルズ』(仮題)

振付・演出=近藤良平 出演=コンドルズ



2

ワークショップ編

小学生/中学生/高校生のための
演劇・ダンスワークショップを各種開催



3

8月13日[日]～8月27日[日] シアタートラム

ドイツの最先端戯曲×日本の気鋭演出家が
シアタートラムで刺激的な邂逅を果たす

『チック』

原作=ヴォルフガング・ヘルンドルフ 作=ロバート・コール

翻訳・演出=小山ゆうな

出演=柄本時生 ほか



世田谷区を中心とする地域の人々に向けて、演劇やダンスを観るだけではなく活用していくあり方に触れるワークショップやレクチャーなどを劇場内外で行います。誰もが等しく文化・芸術に親しみ、共有できる事業を展開することで、豊かな地域社会の形成を目指します。

コミュニティプログラム

- ▶ 演劇・ダンスワークショップ
- ▶ 子どものためのワークショップ

小学生・中学生のための
演劇・ダンスワークショップ
世田谷パブリックシアター演劇部
中学生の部

- ▶ 地域の物語ワークショップ

学校・施設との連携プログラム

- ▶ 学校のためのワークショップ
かなりゴキゲンなワークショップ巡回
先生のための演劇ワークショップ

- ▶ 世田谷区立中学校演劇部支援
- ▶ 区内施設連携プログラム

▶ 移動劇場

世田谷パブリックシアター@ホーム公演
世田谷区内の高齢者施設ほかで上演
新作 脚本・演出=ノゾエ征爾

研究育成プログラム

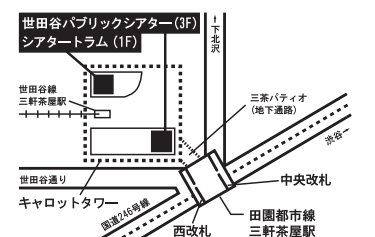
- ▶ 観客育成プログラム
舞台芸術のクリティック
世田谷パブリックシアター ダンス食堂
- ▶ 専門家育成プログラム
進行役のための世田谷ワークショップラボ
演劇研究ゼミナール
舞台技術講座

チケット購入のご案内

世田谷パブリックシアター
チケットセンター
キャロットタワー 5階
Tel. 03-5432-1515
電話・窓口 10:00～19:00
年中無休(年末年始を除く)

世田谷パブリックシアター
オンラインチケット
PC <http://setagaya-pt.jp/>
携帯 <http://setagaya-pt.jp/m/>

アクセス



三軒茶屋駅直結
[東急田園都市線(渋谷より2駅5分)・東急世田谷線]
〒154-0004
世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー内
Tel. 03-5432-1526
<http://setagaya-pt.jp/>

ご協賛・ご協力いただいている
企業・団体

Asahi アサヒグループホールディングス

東急電鉄

東邦ホールディングス株式会社

TORAY 東レ株式会社

TOYOTA

Bloomberg

AnneValentin リュネット アン・バレンタイン

INSTITUT FRANÇAIS 在日フランス大使館/
アンスティチュ・フランセ日本